

第3回

# 全国被災地

2018

【参加無料】

# 語り部シンポジウム in東北

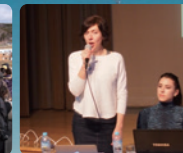
## 「KATARIBE」を世界へ

### ～語り部と震災遺構が紡ぐ“被災地”と“未災地”～

平成30年 **2月25日(日)・26日(月)**

会場／南三陸ホテル観洋および南三陸町内

(宮城県南三陸町黒崎 99-17 TEL.0226-46-2442)



「震災を風化させないための語り部バス」による地域活性化への取り組み

第3回ジャパン・ツーリズムアワード大賞受賞

東日本大震災から間もなく7年が経ちます。震災復興が進むとともに私達には様々な課題が見えてきています。災害そのものを伝えるに加え、私たちが10年・100年・1000年先まで伝えたいことを誰もが語り部として伝えていくことが重要です。そのための課題解決、継承方法、連携、未来への指針について、語り部自身の“声”で今こそ「被災地」と「未災地」を結び教訓を紡ぐ機会が必要です。日本から世界へ発信すべきことを共有し、防災・減災を実現していくためシンポジウムを開催致します。



#### 【プログラム】

#### ■2月25日(日)

【第1部】【第一便】10:00～11:15 【第二便】11:00～12:15  
▶震災を風化させないための語り部バス(2便運行)

【第2部】12:30～12:50

▶オープニングプレゼンツ

・浅間山大和讃(群馬県嬬恋村鎌原観音堂和讃会)

13:00～15:45

▶開会式

▶パネルディスカッション

「普遍性・持続性のある震災伝承と震災遺構  
～「KATARIBE(語り部)」を世界へ・被災地から未災地へ・その先の未来へ～」

【第3部】16:00～17:30

▶分科会(3分科会)

- ①語り部として私たちが今、伝えたいこと
- ②震災遺構と語り部が伝える震災伝承と教訓～
- ③未来への伝承 ～10年・100年・1000年先へ繋ぐために必要なこと

【第4部】18:00～19:30 ▶交流会(立食形式) ※有料

【第5部】20:00～22:00

▶ドキュメンタリー上映会&復興トーク

『“伝える”～東日本大震災から7年、阪神・淡路大震災から23年』

#### ■2月26日(月)

【第6部】8:30～9:10

▶震災語り部 ～宮城・岩手の語り部による講話～

【第7部】9:15～9:45 ▶クロージング

【オプション】10:15～

▶語り部バスオプションツアー(2コース・ガイド付)

A.気仙沼コース B.大川小学校コース(石巻市)

※会期中の常設展示等あり

※プログラムの詳細・参加お申込み方法は裏面をご覧ください

ホテル観洋ホームページ URL▶<https://www.mkanyo.jp>

シンポジウムの詳細を随時UPいたしますのでご覧ください。

#### ■主催:「全国被災地語り部シンポジウム in東北」実行委員会

(南三陸町地域観光復興協議会、南三陸ホテル観洋、南三陸復興みなさん会、南三陸ガイドサークル汐風、北淡震災記念公園 野島断層保存館、北淡震災記念公園震災の語り部ボランティア、FMわいわい、多文化と共生社会を育むワークショップ)

■共催: 科研基盤(B)「被災者支援レジーム／復興まちづくりの国際比較研究」

■協力: 財団法人仙台応用情報学振興財団、一般社団法人気仙沼観光コンベンション協会

■特別協力: 南三陸ホテル観洋協力会

■後援(予定): 宮城県、宮城県教育委員会、南三陸町、南三陸町教育委員会、気仙沼市、気仙沼市教育委員会、NHK仙台放送局、TBC東北放送、ミヤギテレビ、仙台放送、KHB東日本放送、河北新報社、日本経済新聞社仙台支局、朝日新聞仙台総局、読売新聞東北総局、毎日新聞仙台支局、産経新聞社東北総局、一般社団法人共同通信社、時事通信社、三陸新報社、エフエム仙台、ラヂオ気仙沼

25日(日)

### 仙台→南三陸 片道バス運行

(特別便) ※事前予約制・無料  
【仙台駅東口】9:00出発  
(観光バス乗り場より)  
※ご利用の方は事前にご予約  
ください。  
※語り部バスは11:00出発に  
参加可能です。  
※お帰りはJR戸倉駅まで  
となります。